

蒜山野営場 雑木林

キャンプ場周辺には雑木林が広がっており、かつては地元住民たちが落葉は肥料として、枝はたきぎとして、日常的に利用していた。また、炭として利用するために雑木林の木々は10～20年ごとに定期的に伐採されてきた。伐採された木の切り株からは再び新しい枝が育つ。これを萌芽更新と言う。このため、現在残存する木は再生力が強い。雑木林の中で株立ちとなった木があちこちに見られ、過去に切断されたことが伺われる。

木の種類

クヌギ

葉は大きく、縁のギザギザがある。幹には深く不規則な溝がある。茶道ではこの木から作った炭を使う。

コナラ

葉はザラザラとしていて、ミズナラよりも縁のギザギザは浅く葉柄が長い。

ミズナラ

別名、オオナラ。葉に縁のギザギザが大きく目立つ。木はウイスキーの熟成樽に利用される。

カシワ

葉は大きく、縁が丸い波形となる。大きいものでは長さ 35 cm にもなる。秋に枯れた葉が春まで樹についたまま落葉しない。

ウリハダカエデ

葉は浅く裂けた五角形で、それぞれのギザギザにさらに小さなギザギザがある。幹には黒と緑色の縦じまがあり、この模様の色からウリハダカエデと呼ばれるようになった。

リョウブ

香りのする白い花が咲く低木。幹は縦長でまだらに剥げ落ち、幹肌はなめらか。

ホオノキ

葉は大きく、長さ 40 cm にもなることがあり、縁にギザギザがない。